多賀城跡

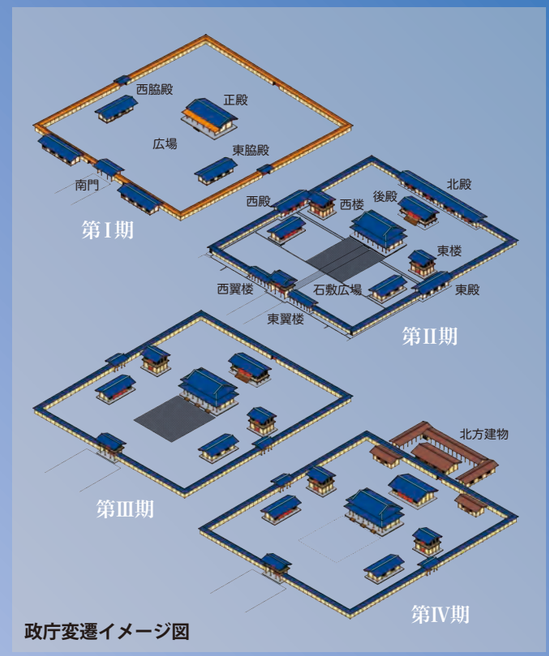
散策リーフレット『多賀城跡を歩いてみませんか』

多賀城とは？

神亀元年（724）、大野東人によって創建された奈良・平安時代の陸奥国の国府であり、行政の中心地でした。また、奈良時代には鎮守府も置かれ、軍事の中心でもありました。

仙台湾や仙台平野を一望できる丘陵上に立地し、一辺が１㎞前後のいびつな四角形に塀で囲い、南・東・西に門が開かれていました（北門は未確認）。ほぼ中央に重要な政務や儀式、宴会などが行われた政庁があり、城内の各所に実際の行政事務を行う役所や兵士の住居などが配置されていました。

政庁は東西 103m、南北 116mの長方形に築地塀を巡らせ、内部に正殿、脇殿、後殿、楼などを計画的に配置していました。発掘調査の結果、政庁には、大野東人の創建（第Ⅰ期）、天平宝字６年（762）の藤原朝狩による大改修（第Ⅱ期）、宝亀 11 年（780）の伊治公呰麻呂の乱による焼き討ちからの復旧（第Ⅲ期）、貞観 11 年（869）の陸奥国大地震からの復興（第Ⅳ期）の４時期の変遷があったことがわかりました。第Ⅰ・Ⅱ期は奈良時代、第Ⅲ･Ⅳ期は平安時代で、終末は 11 世紀中頃と推定されています。



政庁変遷イメージ図

＊南から撮影した政庁跡航空写真に第Ⅱ期政庁復元模型を合成

宮城県多賀城跡調査研究所

多賀城廃寺跡まで足を延ばしてみませんか

多賀城廃寺とは？

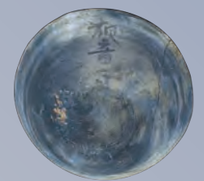
仏教の力で東北地方の安定を図るため建てられた多賀城跡の付属寺院で、多賀城跡と同時に創建されました。

講堂を正面とし、東側に三重の塔、西側に金堂を配置し、築地塀で囲んでいます。このような配置は、多賀城跡の前身である仙台市郡山遺跡の付属寺院である郡山廃寺や大宰府の付属寺院である観世音寺と似ています。さらに、北外側には僧坊や子房、経楼や倉庫がありました。

２㎞ほど西側で、万灯会で使われた多量の土器とともに「観音寺」と墨書された土器が発掘され、多賀城廃寺は当時「かんのんじ」または「かんぜおんじ」という名前であったと考えられています。

多量の瓦の他に、陶塔や泥塔、粘土製の仏像の破片などの仏教に関連する遺物も発見されています。

発掘調査時の塔
高さ３ｍの基壇上に、心礎と 16 個の礎石がすべて移動せずに残っていた。三重の塔と推定されている。


「観音寺」墨書土器
（多賀城市埋蔵文化財調査センター 蔵）

陶塔 塔のミニチュア模型の焼き物

環境整備後（現在）の塔

泥塔 型で大量生産した小さな塔の焼き物

多賀城廃寺伽藍模型

周辺案内図
駐車場：７台分（大型バス不可）　　トイレ：使用可
JR 東北本線 国府多賀城駅から徒歩８分
（ウォーキングによるカロリー消費量は往復で約 53kcal）
東北歴史博物館から徒歩６分
（ウォーキングによるカロリー消費量は往復で約 40kcal）

多賀城跡について学べる施設

東北歴史博物館

〒985-0862
宮城県多賀城市高崎１－２２－１
TEL：022-368-0106
※多賀城跡の調査成果や出土遺物を常設展示しています。
また、博物館職員の解説による城内見学会「多賀城跡巡り」も定期的に実施しています。
詳しくは→http://www.thm.pref.miyagi.jp/

多賀城市埋蔵文化財調査センター

〒985-0873
宮城県多賀城市中央２－２７－１
TEL：022-368-0134
※常設展示「古代都市　多賀城」をはじめ、市内発掘調査の速報展などを見学できます。
詳しくは→http://www.city.tagajo.miyagi.jp/monosiri/bunkazai/maibun/index.html

宮城県多賀城跡調査研究所

〒985-0862
宮城県多賀城市高崎１－２２－１
TEL：022-368-0102
FAX：022-368-0104
E-mail：tagajo_labo@pref.miyagi.jp
ホームページ
http://www.thm.pref.miyagi.jp/kenkyusyo/

ホームページアドレスの「QR コード」です→

※ QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です

政庁・大畑地区コース

このリーフレットでは、JR 東北本線 国府多賀城駅をスタート地点とし、徒歩で①外郭南東隅→②外郭南門・多賀城碑→③政庁～南門間道路→④政庁→⑤作貫地区→⑥外郭東門・大畑地区を見学するコース（片道：約 2.5km）を紹介します。

所要時間：約 2.5 時間（往復・見学・休憩込）

※ ④政庁で引き返した場合の所要時間は約 1.5 時間

ウォーキングによるエネルギー消費量：305kcal（往復）

③ 政庁～南門間道路・城前地区

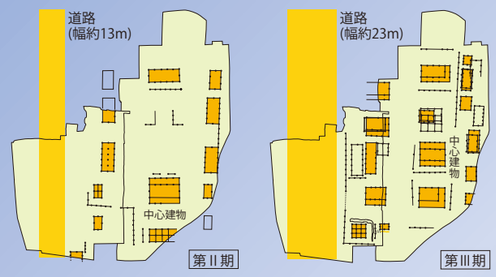
政庁下は傾斜がきついため、階段となっていました。また、低い部分には排水のための側溝・暗渠が設けられていました。

政庁下の階段

道路の暗渠排水施設

政庁の南で、メインストリートの東側にあります。

第Ⅱ期につくられて、伊治公呰麻呂の反乱で火事に遭い、第Ⅲ期に再建されています。第Ⅱ期に整備された役所が存在するのはいまのところ城前地区だけです。



城前地区建物配置模式図

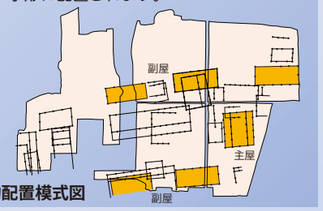
④ 政庁

昨年度、正殿の発掘調査を行いました。詳しくは、「発掘成果パンフレット 2012」をご覧ください。

正殿発掘調査の様子

⑤ 作貫地区

政庁から沢を隔てた東の丘陵上にあります。第Ⅲ期になると、5 棟の建物が政庁に向けて「コ」字形に配置されます。



建物配置模式図

（多賀城とは？ のつづき）

なお、こういった変遷は城内各地の発掘調査でも確かめられており、多賀城全体を考える上でも基本となっています。

実務を行う役所は、大畑地区、城前地区、作貫地区、六月坂地区、金堀地区、五万崎地区にあり、第Ⅲ期に成立したり再整備されたりしていることから、平安時代に体制が充実したことがわかります。

政庁・南門間は大規模に造成された直線的な道路で結ばれており、多賀城内のメインストリートでした。平安時代には大規模に拡幅されるとともに城外に延長されました。一方、西門・東門間の道路は政庁の北側をとおる尾根上に造られており、五万崎・金堀・六月坂・大畑地区の役所を結んでいます。東門からは塩釜湾に面した国府の港に通じていたと推定されています。

多賀城を囲む塀は築地塀と材木塀です。いずれも高さ４～5mほどであり、築地塀は丘陵上に、材木塀は沖積地に造られています。築地塀は土を突き固めて造った土塀で、屋根がかけられていました。南辺築地塀の傍から大垣と墨書された土器が発見され、都と同様に多賀城でも大垣と呼ばれていたことがわかりました。材木塀は材木を密接して立て並べた塀です。

多賀城内からは瓦や土器を始め、様々な遺物が発見されています。政庁の建物や門などの重要な建物は瓦葺きで、第Ⅰ期の瓦は大崎平野周辺で焼かれ、第Ⅱ期以降は多賀城の近くで焼かれています。土器は土師器や須恵器が多く、他に高級品である灰釉陶器、緑釉陶器、中国から輸入された青磁や白磁などがあります。大部分が食器ですが、まじないに使われた土器もありました。

この他、役人が使った硯、紙（漆紙）、木札（木簡）、ナイフなどの文房具や占いに使った骨、まじないに使ったかたしろなどが発見されています。

多賀城跡の周辺には、城外の南東の丘陵上に付属寺院である多賀城廃寺があり、南～西の沖積地には道路によって地割りされた市街地が広がっていました。東側の丘陵上の西沢遺跡や多賀城廃寺周辺の高崎遺跡にも多くの人々が暮らしており、多賀城跡を中心とした都市が形成されていました。

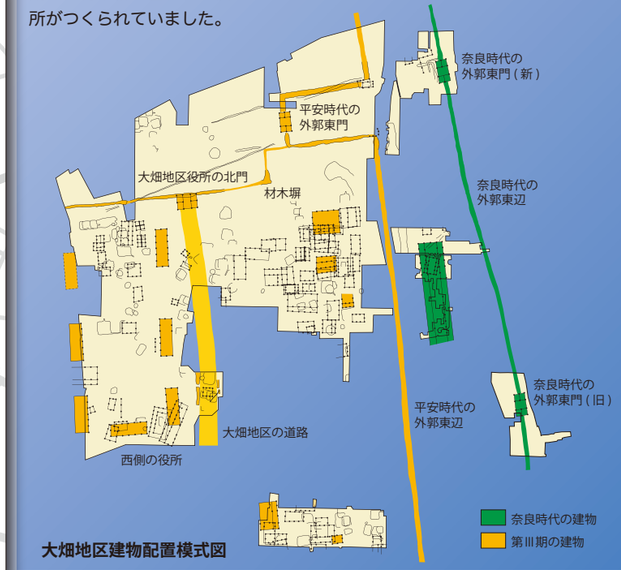
⑥ 外郭東門・大畑地区

外郭東門跡は外郭東辺の北寄りにあり、第Ⅱ期（奈良時代）には礎石式の八脚門で、第Ⅲ・Ⅳ期（平安時代）には大きく内側へ入り込んだ場所に移動します。平成 22 年度に実施した第 82 次調査では、これらよりも古い第Ⅰ期とみられる掘立式の八脚門を外郭東辺中央部で発見しました。

外郭東門を入ったところには大畑地区があり、第Ⅲ期には材木塀で囲われた役所がつくられていました。

奈良時代の外郭東門（新）

大畑地区の役所

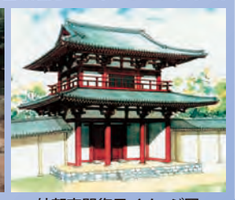


大畑地区建物配置模式図

② 外郭南門・多賀城碑

南辺築地のほぼ中央にあり、第Ⅱ期以降は礎石式の八脚門で、二階建ての豪華な門です。多賀城跡の正門であり、政庁とは直線道路でつながっていました。

外郭南門



外郭南門復元イメージ図
（提供　多賀城市教育委員会）

「壺碑」とも呼ばれ、日本三古碑の一つです。従来偽物説がありましたが、近年本物であることが確定し、重要文化財に指定されました。724 年に多賀城が大野東人によって創建され、762 年に藤原朝狩によって修造されたことを記しており、他の文献にはない貴重な情報を伝えています。

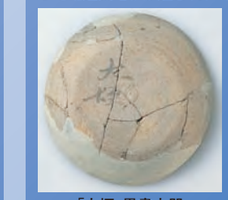
（釈文）

多賀城碑　去京一千五百里
去靺鞨国界一百日里
去常陸国界四百十二里
去下野国界一百七十四里
去陸奥国界一千里
西　此城神亀元年歳次甲子按察使鎮守将
軍従四位上藤原朝臣東人之所置
也天平宝字六年歳次壬寅参議東海東山
節度使従四位上仁部朝臣朝獦修造也
天平宝字六年十二月一日

多賀城碑

① 外郭南東隅

独立丘陵の頂部に位置し、この場所の西側にあたる低湿地には大規模な基礎工事を伴った南辺築地塀が造られ、北側の低湿地では東辺を画する材木塀が見つかっています。



「大垣」墨書土器

外郭南辺築地塀（東部）

外郭東辺材木塀（南部）